

## 5 内陸部（市街住宅地域）

平野や丘陵に市街地、住宅地が面的に広がり、まとまった樹林地を有する規模の大きな公園が点在する地域です。香椎、吉塚、比恵、大橋、六本松、七隈、橋本などに特徴づけられます。

人の居住・生活空間に隣接するため、事業の実施により発生する大気、水質などへの環境負荷を低減し、公害を発生させないように留意する必要があります。また、みどりや水辺の整備では、ヒートアイランド現象の軽減や生物の生息・生育環境の創出のほか、街並み景観にも配慮する必要があります。

### 《求められる環境の例》

- 油山から鴻巣山などをつなぐ丘陵地や段丘崖沿いの緑地、多々良川や室見川など市街地を流れる河川等を軸として、都市内の樹林地や水辺地が保全、再生され、生態系ネットワークやコリドー、風の道などが形成されている
- 風致地区や特別緑地保全地区など都市計画の諸制度の活用によって、大きな社寺林や鎮守の森、屋敷林、宅地の緑などが保全され、都市型鳥類などの身近な生き物の生息生育空間が保全・再生されている
- 浸透性舗装や住宅地への雨水浸透施設の設置など、まちづくりの中で雨水浸透施策が実施され、健全な水循環が確保されている
- 都市公園の整備や市民緑地の指定・整備などによって、子どもたちが土に親しむ場が確保されている
- かつて人工的に創り出され、人の手によって維持されてきた大濠公園、動・植物園、西公園、さらには護国神社などの緑は、市街地に残された緑の拠点となっており、地域住民が積極的に維持管理を行うことで地域コミュニティも強化されている


※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 内陸部（市街住宅地域）

### 内陸部(市街住宅地域)の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	排水による水質汚濁、幹線道路沿線での大気汚染、騒音・振動などの公害発生の防止に努めてください。また、ヒートアイランド現象緩和のため風の道を確保するなど、建築物の配置を検討してください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備・管理を行い、生物の生息空間の創出、生態系ネットワークの形成に配慮してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	山地・丘陵地域から連なる緑のネットワークを分断しないよう緑地や水辺空間の適切な配置に努めてください。
環境への負荷の低減	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用のほか、再生可能エネルギーの利用、省エネルギー施設・燃料電池・雨水利用施設の導入等を検討してください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	福岡市内各区に分布する。 多々良川、御笠川、那珂川、樋井川、七隈川、室見川によって形成された沖積平野の中・下流域に位置する部分と、標高50m前後の起伏のある小丘陵よりなる。
植生	自然に成立した植生は少ないが、香椎宮などの社叢や福岡城跡、市街地に点在するため池など、起源の古い施設には自然性の高い樹林地や水辺植生が成立する。
生物多様性	<p>内陸部(市街住宅地域)を特徴づける貴重・希少生物は、「起源の古い社叢林やため池」に生息・生育することが多い。</p> <p>&lt;内陸部(市街住宅地域)を特徴づける貴重・希少生物&gt;</p> <p>植物：ツクシオオガヤツリ [福岡城濠、野間大池等]</p> <p>魚類：メダカ (ミナミメダカ)</p> <p>昆虫類：アカンジミ [南公園]</p> <p>筥崎宮、香椎宮、山王公園、東公園、大濠公園、舞鶴公園、南公園、老松神社、照天神社など、都心に点在する緑地空間は主要な生物の生息・生育環境となっており、その機能を維持するため、これらを核とした緑、水辺のネットワークの形成が望まれる。</p>
	
メダカ (ミナミメダカ)	
●社会的条件	
生活環境	<p>下水道整備が進んでおり、河川への汚濁負荷の流入は減少しているが、河川流量も同様に減少している。</p> <p>室見川、那珂川、多々良川は水道水源として利用されている。</p> <p>幹線道路の沿線では自動車交通による沿道大気汚染、騒音・振動の発生影響が見られる。ヒートアイランド現象が確認されており、海からの風の道を確保するように建物・緑地を配置することなどが期待されている。</p>
景観・歴史	都心部には主要な商業、業務、公共施設が高度に集積しており、活気あふれる都市景観を形成している。

景観・歴史	<p>箱崎、御供所、姪浜などの歴史的な街並みのほか、春吉、西新などでは古くから地域に密着してきた商店街が点在している。</p> <p>六本松、桜坂などでは、多くの場所が風致地区に指定され、人と自然との調和に配慮した住宅地が形成されている。</p> <p>山王公園、東公園、大濠公園、舞鶴公園、南公園、室見川河畔公園、友泉亭公園など、規模の大きな公園が多く、レクリエーションの場として親しまれている。</p>
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
周辺環境への大気汚染、騒音や振動、車両の走行による渋滞の助長対策	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 沿道に遮音壁を設置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 道路を低騒音舗装にする。</li> <li><input type="checkbox"/> 施工規模に見合った低公害型・省エネルギー型の作業機械を導入する。</li> <li><input type="checkbox"/> 作業に伴う、騒音・振動、排気ガス、粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 資材等運搬車両、作業機械は、騒音・振動、排気ガス、粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。</li> <li><input type="checkbox"/> 防音パネル・シートを設置し、施工時の騒音の拡散を抑制する。</li> <li><input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか、工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。</li> </ul>
大気汚染や水質汚濁などの公害発生の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 適切な作業・防じん対策、アスベスト対策、ダイオキシン類対策を実施する。</li> <li><input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。</li> <li><input type="checkbox"/> 作業機械は良質燃料を使用し、整備点検を適宜行う。</li> <li><input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。</li> <li><input type="checkbox"/> 施設などにおいて、最新の環境保全設備の導入を図り、環境汚染物質の排出を抑制する。</li> </ul>
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
生態系への影響の軽減対策	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 法面や仮施設跡地、裸地は、表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。</li> <li><input type="checkbox"/> 施設周辺や壁面、屋上の緑化に努める。</li> <li><input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質を保全する。</li> <li><input type="checkbox"/> 自然地形を活かした施設計画など、地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。</li> </ul>
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備を行うとともに、植樹のタイプに応じた適切な管理を行い、生物の生息・生育場所としての質の向上を図る。</li> <li><input type="checkbox"/> 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。</li> <li><input type="checkbox"/> 代替地の創造や移植を行う。</li> <li><input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。</li> </ul>
外来生物対策	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 公園樹木、緑化植物は、公園の性格・特性にあった在来植物種を選定し、外来種を避ける。</li> </ul>
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 木杭・石組など、自然素材を活用した施設を設置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 橋脚や護岸、コンクリート施設などの配置やデザインや形状、色彩を工夫する。</li> </ul>
環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 施工方法の工夫や破碎、焼却、脱水、乾燥などによって廃棄物の減量化を図る。</li> <li><input type="checkbox"/> 不法投棄を防止し、適正処分を徹底する。</li> <li><input type="checkbox"/> 解体作業が発生する場合は分別解体に努め、再資源化率の向上を図る。</li> <li><input type="checkbox"/> 路床材や舗装骨材、枕木は、極力再生品を調達する。</li> <li><input type="checkbox"/> 熱帯木材型枠の使用を削減する。</li> <li><input type="checkbox"/> 残土の現場内及び他工事での活用、再資源化などによる再利用を推進する。</li> <li><input type="checkbox"/> 工程で発生した廃棄物の再使用、再利用を図る。</li> <li><input type="checkbox"/> 雨水利用、中水利用、燃料電池、再生可能エネルギー利用施設の導入など、既存のライフラインに依存しない仕組みを検討する。</li> </ul>